

希望の登校 満足の下校

校長 上橋 秀司

寒さ厳しい冬ですが、まもなく啓蟄を迎えます。少しずつ春めいてきており、長い冬の眠りから覚めた虫たちが、そろそろ土の中から出てくるころでしょう。卒業式まで後二十日と少々、あっという間の一年間でした。6年生は、新しい門出に向かって、また、1年生から5年生は一つ上の学年へ向かって、この1ヶ月間を充実したものにしてほしいと願っています。

2月は、教育評価の時期でした。この一年間の若宮教育を振り返りながら、子どもたちの成長した所、もっと力をつけなければならない所、そのための指導法の見直し等を行いました。その中で、子どもたちは日々、希望を持って登校し、満足をして下校しているだろうかという意見がでました。一人一人の顔を思い浮かべながら、「今日の授業を楽しみに登校してくれただろうか。」「学校行事では、力を出し切り満足感を味わうことができただろうか。」「多くの友だちと素敵な関わりが持てたのだろうか。」と様々な観点から話し合いをしました。

そんな中、一年前の新聞記事を思い出しました。東日本大震災発生から5日たった16日、千葉県旭市の津波が押し寄せた中学校のことです。子どもたちは、不安や恐怖に襲われる中、頑張って登校し、「みんなと話せるのが楽しい。」と友だちとの出会いを生きる力に変えていきました。校門正面の校舎の窓には、「希望の登校」と貼り紙がしてあったそうです。学校は、生きる力の源であるという思いを強くした記事でした。

学校には、カリキュラムがあります。カリキュラムとは、指導計画のことで、今年度は、新しい学習指導要領にそって学校教育を進めてきました。そこで使用する年間指導計画、新しい教科書、時間割、教材や教具などは「目に見えるカリキュラム」です。一方、学校教育には「目に見えないカリキュラム」があり、実は、こちらの方が「目に見えるカリキュラム」より大切だと思っています。「目に見えないカリキュラム」とは、教師の人生観・教育観・価値観、子どもへの愛情、日々の声かけや支援などのことです。これらが若宮教育を支え、子どもたちの生きる力の源につながっていくものだと思っています。

この一年間、全職員が一つになって、267人のわかみやっ子一人一人の個性を大切に、優しさと思いやりを育み、「笑顔の花咲く若宮小」を目指して取り組んできました。けれども、指導に多々不十分な点があったことも確かです。これらの課題は、次年度に向けてしっかりと改善していきたいと思っています。ワクワク・ドキドキ感の満ちあふれる希望の登校、そして、分かった、できた、やりきったという満足の下校のために・・・。

最後になりましたが、学校に対し保護者や地域の皆様方から絶大なるご支援・ご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。